

## 令和4年度病害虫発生予察特殊報 第2号

令和4年11月29日  
岐 阜 県

- 1 作物名 キウイフルーツ
- 2 病害虫名 キクビスカシバ *Nokona feralis* (Leech)
- 3 発生地域 中濃地域

### 4 発生状況

令和4年6月中旬に中濃地域のキウイフルーツほ場において、枝幹を加害するチョウ目幼虫がいるとの報告があった。当該ほ場を調査したところ、枝幹を加害している2種の幼虫を確認した。そのうちの1種のフラス（虫糞）には糸はなく、ヤニが混ざったような形態であり、キクビスカシバで報告されているフラスの状況に似ていた。樹幹内の幼虫を採取し、鳥取大学農学部中秀司准教授に同定を依頼したところ、その遺伝子配列から本県では未確認のキクビスカシバであることが判明した。本種による農作物の被害は本県では初確認である。

### 5 形態及び生態

成虫の開帳は雄が30~40mm、雌が38~45mmであり、頭部、胸部、腹部は全体的に黒色であり、腹部第2節および第4節に黄色の帯がある。終齢幼虫の体長は約40mmで、頭部および前胸背板は赤褐色、腹部は淡い桃紫色をしている。

卵は葉柄基部や枝分岐部などに産み付けられて越冬する。翌春4月頃に卵からふ化した幼虫は、新梢の葉柄基部から食入し、成育するにつれて枝の基部方向に移動するため、食入部位に着生した葉や新梢の枯死、枝の伸長抑制などの被害を及ぼす。

枝の内部で蛹化し、9月上旬頃から蛹殻を半分ほど枝から出すような格好で羽化する。成虫の発生は9月上旬~10月中旬頃の年1回である。

なお、類似の樹幹害虫であるコウモリガは、フラスが糸にしっかりと絡まり、枝の広い範囲に固まっているため、本種のフラスとは識別できる。

### 6 防除対策

- (1) キウイフルーツのキクビスカシバで登録のあるシペルメトリン乳剤、またはスカシバ類で登録のあるフルベンジアミド水和剤を、ふ化時期の4月頃に散布する。
- (2) 成虫の発生時期（9月上旬~10月中旬頃）に、交信かく乱用性フェロモン剤であるシナンセルア剤を設置する。
- (3) 枝から出ているフラスを目印にして、幼虫が食入した枝を切除する。

## 7 参考文献

窪田聖一ら(2017)：植物防疫 第71巻第7号 30～33

窪田聖一ら(2017)：日本応用動物昆虫学会誌 第61巻第2号 73～80



写真1 被害枝から排出されたフラス



写真2 枝内に食入した幼虫



写真3 蛹殻(丸印)



写真4 成虫

(原図は弘前大学農学生命科学部  
工藤誠也博士より提供)